

## 第 15 回薬学教育協議会・医薬品情報学教科担当教員会議 議事録

【日 時】令和 8 年 3 月 13 日（金） 14：00～16：10

【会 場】Zoom 開催（ホスト：北海道医療大学薬学部）

【開催実行委員】小林道也（委員長、北海道医療大学）、大津史子（副委員長、名城大学）

【出席者】全国 73 大学薬学部から 75 名の教員が参加した。（別紙 1）

1. 委員長である北海道医療大学薬学部 小林道也より開会の挨拶があった。
2. 小林委員長より、これまでの本教員会議において議論されてきた「実施の難しい学修目標に関するアンケート調査や当該学修目標の演習・実習内容とその評価方法」などについて、簡単に説明があり、本日のグループワークでは「これらの学修目標に関する定期試験を作成する」をテーマとして実施するとの説明があった。

実際には、「薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）」の実施に向けて教育が難しいと考えられる学修目標の小項目として D3-4（医薬品情報の応用と創生）を取り上げ、

<学修目標>

D3-4-1) 収集・評価した医薬品情報を、その情報を使う対象を考慮して、活用する。

D3-4-2) 収集した資料やエビデンスを適切に評価し、比較する。

D3-4-3) 不足している情報の創生や課題の解決を目的に、適切な情報リソースや研究デザインを検討し、研究計画の概要を立案する。

のいずれかを選び、医薬品情報学（必修科目）の定期試験問題（国家試験や CBT のような選択式の問題ではなく、筆記問題）を作成し、その際に

(1) 筆記試験で評価したいポイント

(2) 想定する問題・設問

(3) 解答用紙と模範解答例

(4) 事前に授業や演習でフォローしておいたほうが、解答しやすいところはどこか

についてグループワークで協議し、プロダクトとしてまとめてもらうよう説明があった。なお、各参加教員に対しては、会議 3 日前に当日の資料（別紙 2）ならびに薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）をメール配信した。

今回の教員会議でも Zoom のブレイクアウトルームを利用して、ランダムで配置された 7～8 名の教員によるグループワークを実施した。

3. グループワークは大きなトラブルもなく、予定通りに無事終了した。小林委員長より、各ルームの書記担当教員から小林までプロダクトをメール送信するよう依頼があり、欠席した大学を含め本教員会議メンバー間でプロダクトを共有する予定であると説明があった。また次年度の本教員会議の委員長・副委員長は今年度と同じく、小林委員長と大津副委員長が務めることで承認された。最後に、本教員会議メンバーの東京理科大学薬学部 真野泰成先生より、2026 年 7 月 11-12 日に開催される第 28 回日本医薬品情報学会総会・学術大会についてご紹介があり、会議がすべて終了した。

（文責：北海道医療大学 小林道也）